

マロニエ

福島市立平野中学校 学校だより No.12

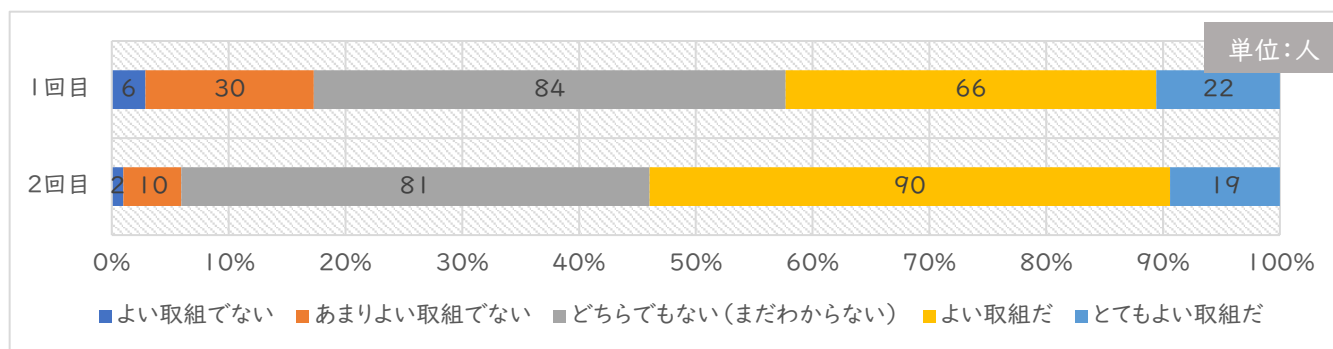
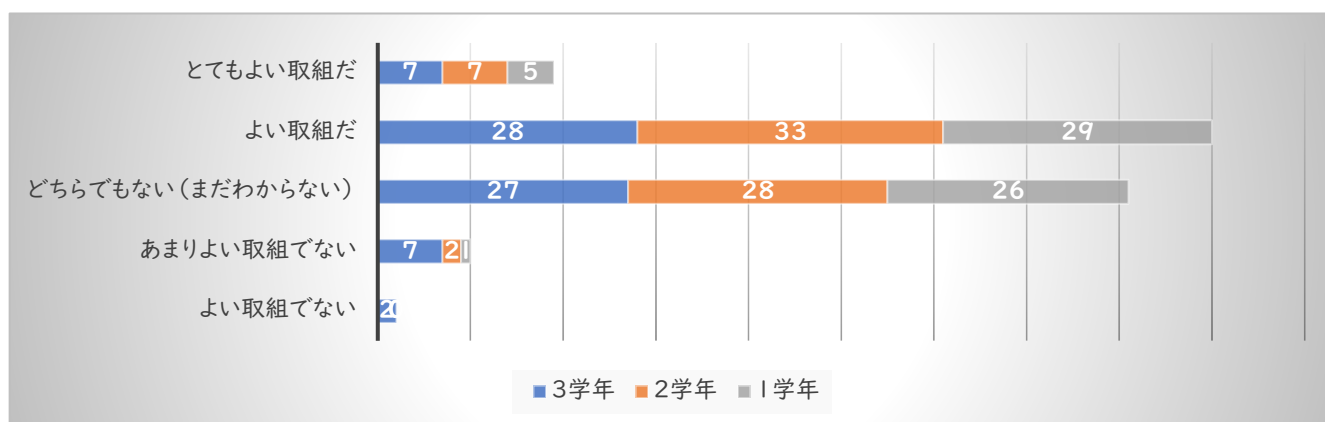
文責：校長 佐藤 裕子



チーム担任制。〔生徒・教職員アンケートから〕

11月26日(水)に実施した「チーム担任制」に関する生徒・教職員アンケートの結果をお知らせします。

Q. チーム担任制について【生徒】



※11月「とてもよい取組だ」「よい取組だ」を合わせると54%となり、6月(42%)に比べ、肯定的な意見が増えました。しかし、6%の「あまりよい取組でない」、40%の「どちらでもない(まだわからない)」の意見もあります。

Q. チーム担任制でよかったこと【生徒】

【1年生の声】

- 給食のときに週によって色々な先生と喋れる。
- 多くの先生と喋ることができる。
- 色々な先生と話せて関わりを持てる。
- この先生には話しやすいっていう先生が来てくれること。
- 先生によって話しやすかったりする。
- 気軽に相談できるから。
- 色々な先生と会話できる。
- いろいろな先生とコミュニケーションが取れているから。

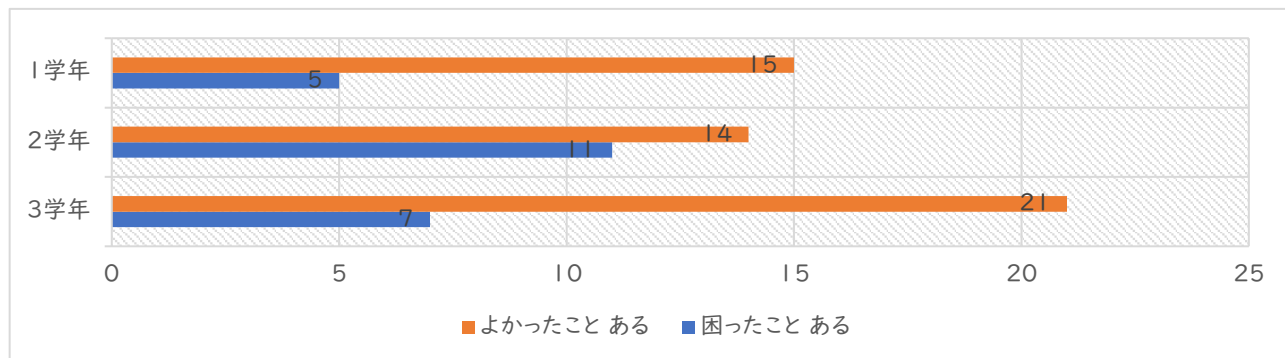
生徒のみなさんの生の声をお伝えいたしたく、同じ内容の意見も掲載いたしました。

【2年生の声】

- 苦手な先生は特にいないですが、困ったことがあったときや部活で聞きたいことがあるとき、都合の良い先生になっていると言いきやすい時がありました。
- 短学活が早く終わる。
- いろんな先生と関わって楽しいです。
- 学年の先生みんなに自分の普段の態度が伝わるから。
- いろんな人間がいて飽きない。
- いろんな話を聞ける！
- 話しやすい先生がいる！

【3年生の声】

- 先生たちの情報共有ができていて、いろんな先生に相談ができる。
- 雰囲気が変わる。
- 自分の教科の先生が担任になると明日の教科が聞きやすい。
- 色々な先生と話せる。
- 色々な先生との関わりが増え新しく知ることが増えたこと。
- いろいろな先生と関わるのができた。
- いろんな先生と会話する機会ができた。
- 今週は先生誰かな？とワクワクする。
- 今まで担任ではなかった先生とお話をする機会が増えて、相談などがしやすくなった事。
- 相談しやすい先生に相談できる。
- 色々な先生が担任になるからいいと思います。
- 先生たち相談などがしやすくなった。
- 様々な先生と関わるのができた。
- 担任が変わることで毎週、その先生の専門の教科を教えてもらえる。
- 例えば、自分がわからない問題があると。ホームルーム担任が変わらないと、授業の前後の時間、昼休みと聞く場面が限られてしまう。しかし、ホームルーム担任が変わることで、いつでも聞くことができ、より多くの問題を解くことができる。このことから、3年生の私にとっては、とても嬉しいことだ。
- 授業などでしか関わりのない先生方の意外な一面が見れるいい機会だった。
- いろんな先生と交流ができること。
- 今までよりもいろんな先生と話すことができるし、話しかけやすくなった。
- 先生方とさらに仲良くなれた気がして、とても楽しい生活を送れているから。
- たくさんの先生と会話ができる。
- 好きな先生や話しやすい先生が担任になると気が楽で良い。
- いろんな先生とコミュニケーションがとれた！！
- 他のクラスの担任の先生とコミュニケーションがとれる。
- 前よりも少し色々な先生と話すことができるようになった。
- いろいろな先生が自分たちの学級のために取り組んでくれているところ。
- 勉強でわからなかったことを教えてもらったこと。
- CA担任の先生以外の学年の先生との関わりが増える。
- いろんな先生と授業以外で話すことが多くなった。
- たくさんの先生と話せるようになった。
- いろんな先生の指導が見れて面白い。
- 教科担当の色々な先生達に遠慮なくわからない問題を聞ける。



Q. チーム担任制に対する意見【生徒】

【1年生の声】

- 他の先生が来た時に、みんな違うことを言うから、どの先生の話で動いたらいいのかわからない時があるから、みんな同じことを言って欲しい。

さらに情報共有、指導の均質化に努めます。

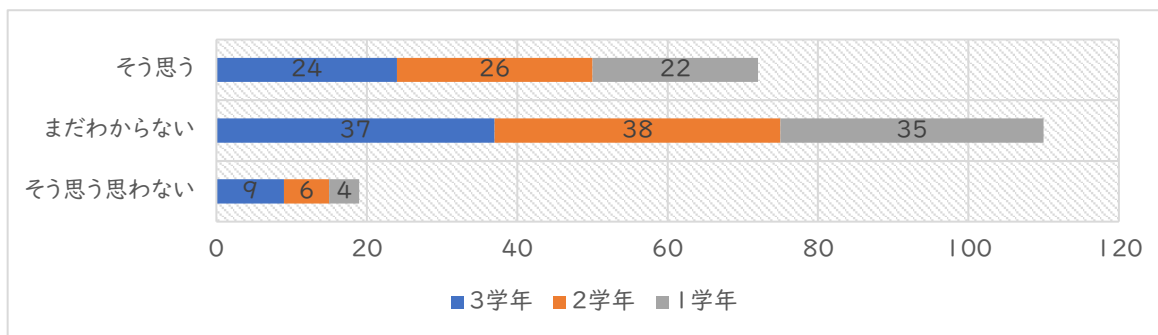
【2年生の声】

- もう少し先生同士で詳しく情報を共有してほしい。
- 先生を交換するペースを一定にしてほしい。
- 先生によってクラスの決まりみたいなのが変わる。
- 先生のローテーションの周期が違う。
- 一週間では足りないからもう少し期間を伸ばしてほしい。

【3年生の声】

- 3学期になって受験のことで不安になると思うから、自分の進路を一番理解してくれてる担任の先生がいいです。
- 生徒たちの重要な書類をどう扱っているのかをわかるようにした方がいいと思います。
- 先生によって言うことが異なる時があるので、学年で統一してほしい。
- 自分にとってはチーム担任制でも特に困ったことはないが、できるだけ先生方の負担にならないように調整を進めて欲しい。

Q. 「チーム担任制」を続けてほしいですか【生徒】



続けてほしい 36% まだわからない 55% 続けてほしいとは思わない 9%

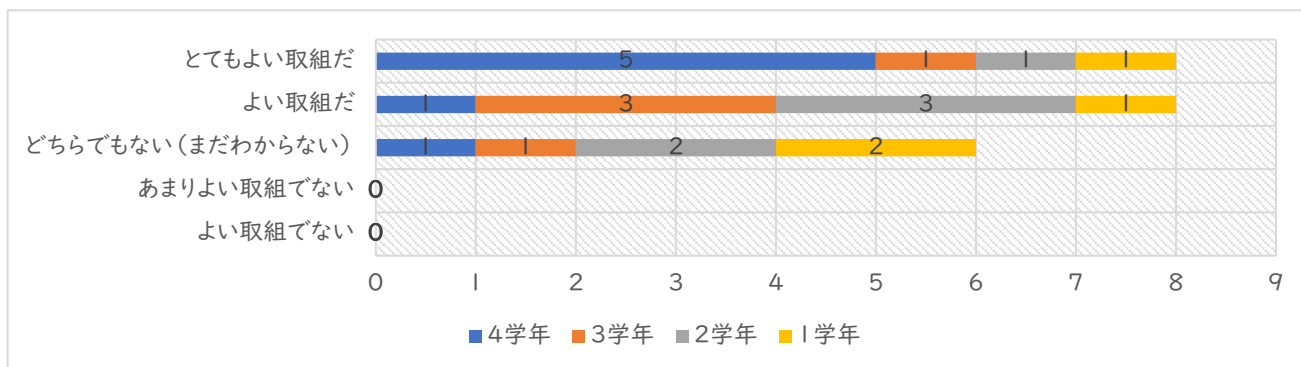
ローテーションの期間及び周期は、一週間を基本としてきましたが、学校行事、学級・学年の雰囲気・状態、学年教師団の事情等によって変則的な場合もありました。特に3学年の進路決定期（現在）は、ローテーションを行わず、CA担任が学級に入っています。

また、水曜日に教職員の「学年会」を行い、生徒に関する情報を共有し、年度当初は、木曜日からホームルーム担任を代えておりました。しかし、第1回目の生徒アンケートに「変な曜日にホームルーム担当の先生を変えないでほしい」との意見があったことをうけ、7月からは月曜日にホームルーム担任のローテーションを行うようにいたしました。

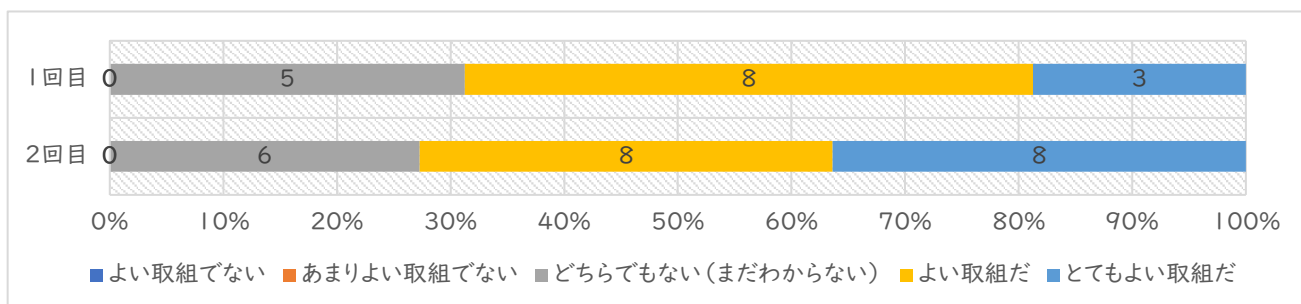
このように、生徒・保護者の皆様の声に耳を傾け、できることから改善を加え、ブラッシュアップをはかってまいります。特に、「提出物の管理」について具体的な改善を早急に行います。



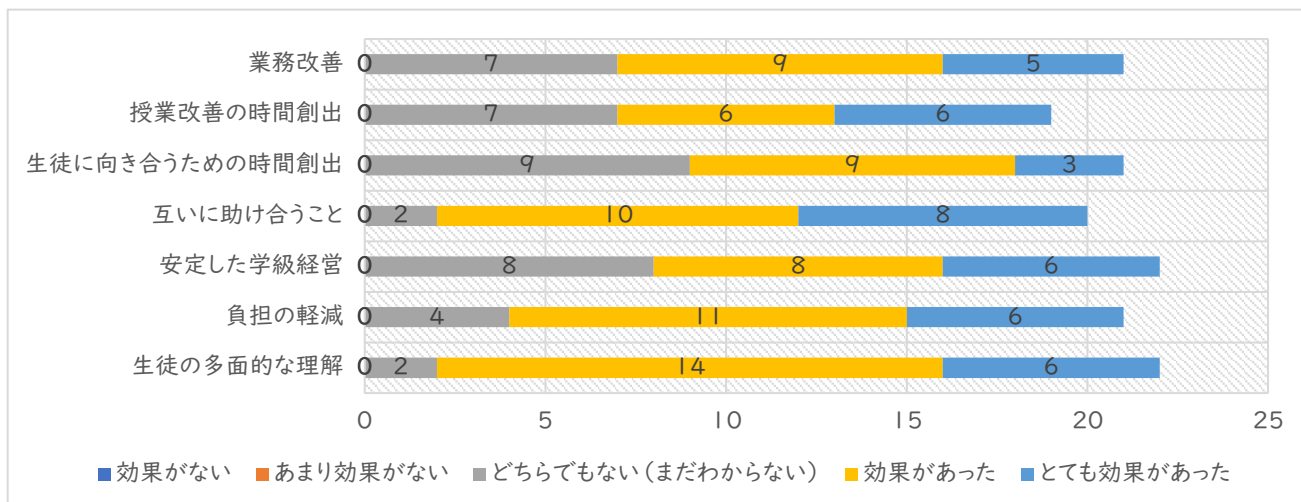
Q. チーム担任制について【教職員】



※教職員は「チーム担任制」を好意的に(73%)受け止めています。(あまりよい取組でない・よい取組でない:0人) さらに、6月より肯定的な意見「とてもよい取組だ」(19%→36%)が増えています。ただ、11月末時点でも、27%が「まだわからない」と回答しています。



Q. チーム担任制「効果がある」と実感するのは…



※「チーム担任制」は、「自分の強みを生かす、弱みを他の教師の強みで助けてもらうなど、お互いに助け合うために効果があった。」「生徒の多面的な理解、問題の早期解決に効果があった。」さらに、「学級担任一人にかかる責任の負担を軽減するための効果があった。」と感じているようです。

Q. チーム担任制でよかったこと【教職員】

- 様々な教員が学級に入ること、学年全員で生徒について共通理解、情報交換がしやすいと思います。互いに相談しやすいので一人で抱え込むことがあまりないのではないかと思います。
- 生徒と話す機会が増え、様々な角度から生徒を見取ることができた。ただ、中学校の場合教科担任制なので、学年の中に教科担当をしていない学級があればさらに効果があると思う。
- 同じ学年の生徒といつもより多く話しかけることができ、また保護者の方とも話す機会が増えました。
- 担任外になったときに、余裕ができる
 - ・ 自分に話づらいことがある生徒がいても、他の先生から情報を得ることができる
 - ・ いろんな生徒を自分の生徒として捉えやすくなり、生徒指導の面でよかった

- 生徒の情報がより多く入ること
 - ・担任しているクラス以外の生徒の、授業以外の姿を以前よりも多くみることができた。
 - ・事務作業の時間を確保できた。
 - ・休暇や出張などで学級に入ってもらうことをお願いすることも、以前よりしやすくなったと感じる。
 - ・他の先生の取り組みを見ることができる。
- 話をしたいと思っている先生が、クラスにすることで、気軽に話ができる。
- 色々な先生方の見方で、アドバイスできる。
- 先生方は、なかなか一緒に活動できない生徒たち（SR・遅刻欠席の多い生徒等）に、学級を超えてとても丁寧に接していると思います。
- 担任以外の先生が生徒と関わる機会が増える。
- 学級の雰囲気や人間関係などがわかって、授業にも活かせる。
- いわゆる「担任の先生」以外の教員も生徒やクラスに関わる機会が増え、様々な視点から見ることができ、生徒理解や学級理解につながる。また「担任の先生」もフツと息抜きする機会があるため、関係悪化を防ぐことができる。
- 他先生の学級経営を見ることができ、勉強になる。
 - ・よりたくさんの生徒に自然と声をかけることができる。
- 上手く学級経営をしていくための様々な考慮すべき事を副担任という立場でも、学び、経験することができるため。
- 毎週新鮮な気持ちで、生徒たちと接することができる。
- 生徒が様々な先生方と以前よりも気軽に話をしてできる雰囲気ができていると思います。生徒個人だけでなく学級や学年の落ち着きにつながると思います。
- 生徒全員と関わるができる。
- 担任が変わることで、学級での指導に新しい視点や指導法が積極的に取り入れられたと思います。その結果、どの学年でも学級の雰囲気が明るく活発になり、生徒の主体性が向上したと感じています。中でも2学期の文化祭の合唱練習に強く表れており、ホームルーム担任の交代が練習の停滞の打破のきっかけになっていたと思います。週ごとに変わるホームルーム担任による新鮮な働きかけが、生徒が毎週熱心に取り組む意欲を引き出していたと思います。
- さまざまな指導に触れ、生徒の視野が広がる。
- より共通した指導が必要になることにより、全体的に指導が徹底される。

Q. チーム担任制で困ったこと【教職員】

- 学習面、指導面、事務仕事等、打ち合わせをしても統一しきれない部分がある。
- 気になる生徒のその後の様子が、クラスが変わることで少し距離のようなみえない部分が出てしまうような。学年で情報交換することの大切さを実感します。
- 提出物関係
 - ・どこまで足並みをそろえればいいのか（情報共有していても今までの経験や捉え方の違いがある）
- 完璧な引き継ぎが難しい。
- 学年として、ブレてはいけないところの確認をしています...
- 提出物などの引き継ぎが大変。
- 指導の一本化を図る際に、A先生とB先生の考え方が異なると、それが出てしまう。生徒の「先生によって言うことが違う」という気持ちはわかる。
- 回収した提出物などの管理が曖昧なところがあった。
- 提出物や情報共有の難しさ。
- 学年での統一した指導方針を踏まえての個別の対応についての共通理解の徹底に時間をかける必要があること。

Q. チーム担任制に対する意見【教職員】

- 質問項目にもありましたが、自分の弱みをかなり支えていただきました。学年の先生方とかなり話をする機会を積極的に作り、学年全体で生徒を見守る、成長を促すそんな思いで生活できました。
- 質問の10以降の内容は、今は効果が感じないです。もう少し時間が必要かと。
- 安定した授業や生徒と教師との関係性があるのは、チーム担任制の効果でもあると思います。（自分はチーム担任はしていないので、見ていての感想です。）
- 副担任の先生の負担が増えてしまう。
- 合唱コンクールでのリーダーを育てる取り組みを広げていければと考えます。

- チーム担任制の取り組みは、事務室からは見えない部分もありますが、職員室に入るとどの学年も、教員同士が支え合いながら一つのチームとして動いており、その連携の強さが日常のやり取りの中にも感じられます。特に印象的だったのは、家庭訪問に学年の先生方が揃って出発していく姿です。一人で抱え込まず、学年全体で子どもたちと向き合おうとする姿勢は、まさにチーム担任制の良さが表れている場面だと感じました。
- 生徒や保護者にとってより分かりやすいものになっていくと、よりやりやすくなると思います。
- チーム担任制の導入は、教職員の負担を減らし、先生方の精神的な安定をに大きく寄与したと思います。具体的には、特定の先生に業務や責任が集中することを避け、長時間労働の削減に効果を発揮したと思います。また、精神的なプレッシャーの偏りを減少させ、学級経営上の困難をチームで分かち合うことで、不登校生徒の分散対応が実現でき、一人で問題を抱え込んだり、一人で多くの問題に対応したりする状況の防止に大きく貢献したと思います。
- 課題としては、今年度のうまくいった状況の持続的な運用だと思います。今後、懸念されるかもしれないこととして私が考えていることは次の3つです。①責任の所在の明確化（最終的な指導責任の所在が曖昧にならないように）。②情報共有とコミュニケーションの強化（固定担任制に慣れた先生は、チーム内での密な情報共有とコミュニケーションに慣れていないかもしれない）。③リーダー層のマネジメント能力（学年主任に高度なマネジメント能力が必要である）。今年の成功体験を踏まえ、これらの課題を未然に防ぎなら、チーム担任制の効果をこれからも発揮できる体制を作っていければ良いと考えています。
- チーム担任制になり、生徒の早退時の保護者への連絡を、学年のどなたにでもお願いできるようになりました。
- 食物アレルギー食材が提供される生徒の毎月の情報を、学年で確実に共有していただく必要があると感じています。
- 体感でしかありませんが、チーム担任制により、生徒が認めてもらえる（救われる）機会が増え、例年よりメンタル面での保健室への来室が少ないように思います。

2025年6月11日、教職員給与特別措置法（給特法）改正案が、参議院本会議で可決・成立しました。注目を集めているのは、教員に時間外勤務手当を支給しないという原則が引き続き維持された点です。一方で、支給されている特別手当について、学級担任には増額する見通しも示されました。これは、学級担任の業務が他の教員に比べ、精神的・時間的に大きな負担を伴うという実態を踏まえたものであると考えられます。

（※法律として成立しておりますが、それがどこまで実現するかはまだ、わかりません。自治体ごとの対応次第、ということです。仮にこの手当が支給された場合、市教委に相談しながらとなりますが、本校においては、指導要録や通知表所見等の事務を担うCA担任【事務担任】への支給が妥当ではないかと考えています。）

学級担任としてのやりがい、喜びの大きさ…「担任の先生とともによい学級・思い出をつくる」ことの醍醐味は十分理解しています。しかし、昨今の教育現場の状況（不登校の問題、いじめ問題等）に、私自身、大きな危機感を抱いていました。

そのような中での、今年度のプロジェクト型改革【挑戦】でした。チーム担任制が直接のただ一つの要因とは言えませんが、今年度の本校の不登校生徒数は、昨年度比、半減しております。さらに、職員室の空気が浄化されているようだ、雰囲気明るくなったとお褒めのお言葉をいただくこともあります。教職員のストレスチェック調査結果は、健康リスク 71（全国平均 100、昨年度リスク 85）と、大幅に軽減できました。

教職員が「同志」となり、試行錯誤しながらチャレンジしてきた「チーム担任制」は、「生徒が主語の学校運営」「皆のウェルビーイングを叶えるシステム」と言えます。さらに様々な運用上の課題を一つ一つ丁寧に解決していきたいと考えています。生徒・保護者・教職員との誠実な対話を大切に、令和8年度も「チーム担任制」に挑戦してまいります。今度とも忌憚のないご意見をくださいますよう、お願いいたします。

最後に、この取組の中で、うれしかったエピソードを紹介いたします。昨年度末、このチーム担任制導入に大きな不安を抱いていた教員が、2学期が始まったところ「仙台の書店で2冊のチーム担任制に関する書籍を購入してきました」と笑顔で語ってくれました。このように“先入観を捨て”チャレンジする仲間がいることが本校の大きな推進力となっています。有難いことです。（校長）

